

協働支援金事業成果報告会のこれまでの課題と改善点について

広報について

- ・一般市民にも広く周知する。(チラシの作成や自治会配布、SNSの活用など)
- ・「審査会・報告会」の名前を変える(楽しい感じ、参加しやすいイメージ)
例えば…「活動発表会」「市民活動フェスティバル」「協働フェス」とか？

報告時間・内容について

【報告時間】1団体あたり10分間(報告5分、質疑応答5分)

【報告内容】※昨年度は事前に下記の4点を中心に報告してもらうように声掛け

- ①事業の目的と成果
- ②交付時のアドバイスを受けて工夫した点
- ③今後の展開について
- ④その他伝えたいこと(活動PRなど)

【意見交換】数団体の報告終了ごとに意見交換の時間を設ける。

→一般参加者との交流、審査員の評価をまとめる時間として活用

審査について

- ・参加してくれた一般市民にも報告を聞いた団体に対して感想、アドバイスを書いても
らえないか(それを評価として団体に届ける)
⇒1団体2~3行程度の無理のない範囲で
- ・「審査員」という呼び方を変える。(評価員、アドバイザー、コメンテーターなど?)
⇒いろいろな立場からのアドバイスがもらえるという雰囲気をつくれな
いか
- ・従来の審査の点数採点は必要か?
⇒コメントによるアドバイスや評価だけではだめなのか
(点数を出すメリット):項目ごとに事業の成果・課題がわかりやすい。評価がスムーズ
(点数を出すデメリット):優劣は関係ないとしつつも意識する。柔軟性がない

事業の良さを引き出すために

- ・審査員に苦労話を引き出すインタビューなどをしてもらう
- ・座る席を工夫する⇒ステージとの距離を近くする、ステージを降りて同じ目線で…

団体の紹介ブースについて

- ・A3のパワーポイント2枚ほどの掲示物を作成してもらい、会場内に掲示する
⇒団体の負担増、昨年度は希望する団体だけ提出
- ・チラシの配架
⇒昨年度は会場の後ろに配置⇒目立ちにくい、休憩時間には交流の場になっていた